

## すべての勉強の基本は「読解力」(2)

—辞書・読書を大いに活用しよう—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：先月号のお話のように、「読解力」を身に着けるには、新聞を毎日読む習慣がとても大切なのですね。

A：(1) ①はい、その通りです。ですから、ご家庭で購読している昨日の新聞をお子様にプレゼントしてあげてください。

②ただし、「読解力」を身に着けるには、新聞に加えて、「辞書と読書の活用」も必要不可欠です。

③そこで、受験に耐えられるレベルの「読解力」を身に着けるために、開倫塾では創業以来40年間、一貫して「新聞・辞書・読書の最大活用」をお奨めしています。

(2) ①せっかくなので、辞書と読書の活用のお話もさせていただきます。

②「読解力」で最も大切なのは、身に着けていることば(語句)の多さです。

③身に着けていることばの数を増やすのに最も役に立つのが、辞書の活用です。

(3) ①辞書とは、国語辞典、漢字(漢和)辞典、英和辞典、英英辞典などです。

②辞書の活用とは、辞書を自分のものとして使いこなすことです。

③辞書は「武士の刀」と同じです。持っていなければ勝負になりません。ですから、辞書はいつでも持ち歩き、手放さないようにしましょう。

\*電子辞書でも OK ですが、落ち着いて勉強するときは、紙の辞書をパッ、パッ、パッとどんどん引くことをお奨めします。

Q：辞書ですか。これをどのように用いれば、身に着けていることばの数、語彙(ごい)数が確実に増えますか。

A：(1) ①なぜ、ことばの数を増やすことが大切か。それは、知っていることば・身に着けていることば(語句)の数が少ないと、学校の先生の授業がよく理解できないからです。

②教科書や教材、参考書、先生が黒板に書く内容もよく理解できないからです。

③定期テストや業者模試、入試の問題文・設問・選択肢の内容を正確に「理解」し、正解を導くこともできないからです。

(2) ①では、ことばの数を増やすにはどうしたらよいか。勉強していて意味のよくわからないことばがあったら、「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて意味を調べる。

②辞書で調べた意味は、頑張っ、その場で覚える。書き方も覚える。

③同時に、必ず「意味調べノート」か「カード」に書き写すことです。

(3) このあとが大切です。

①「意味調べノート」や「カード」は、1ページ目、1枚目から繰り返し「声を出して」読み直し、学び直してすべて覚える。つまり、「音読練習」ですね。

②漢字と英語は、意味を正確に覚えると同時に、すべて正確に書けるまで「書き取り練習」をする。漢字は「書き順」も正確に身に着ける。

③ですから、漢字(漢和)辞典も必要です。

(4)①お奨めは、1日に10回、1か月に300回、1年に3650回、3年に1万回辞書を引き、身に着けていることばの数を自分の力で増やすことです。

②「ことばは力」、「身に着けたことばの数は力」、「語彙数は力」です。そして、「語彙力とは、身に着けていることばの総数」です。

③「辞書を用いる習慣」を身に着け、ことばの数、語彙数を増やすこと。これが、「読解力」を身に着ける第1歩です。

**Q：「読解力」を身に着けるのに必要な3番目は、「読書」でしたね。それではお聞きします。何をどのように読んだらよいのですか。**

A：(1)①教科書や、学校の図書室や近くの公共図書館(村立・町立・市立・区立・県立・都立・国立などの図書館を、「公共図書館」といいます)で紹介されている本・学校の先生から紹介された本がお奨めです。

②これぞという本は、腰を落ち着けて一語一語ゆっくり読む。作者(著者)と「時空を超えた対話」をするような気持ちで、じっくり読むことです。

③1日30分以上、本をゆっくり読む。このようなじっくり型の読書が、「読解力」を確実に身に着けるのに役に立ちます。

(2)①「うん、なるほど。そうか、これはこのようなことだったのか」

②「作者の考えはこうなのか」

③「作者のいいたいことは何だろうか」

などと考えながら読む、じっくり型の読書をお奨めします。

\*気に入った文章は、「書き抜き読書ノート」にすべて書き抜くことです。

(3)①一度読んだ本を何回も読むことも、「読解力」を身に着けるのに役に立ちます。

②大切な本は、「6回読むこと」をお奨めします。

③受験勉強の期間こそ、1日30分読書をするので、「読解力」と同時に「読書の習慣」も身に着けてください。

\*このような本格的な「読書」によって得られるのは「思慮深さ」です。

**Q：各教科の勉強と、新聞・辞書・読書の最大活用で「読解力」を身に着けることとの関係を、もう少しわかりやすく説明してください。**

A：(1)病気にかかったときには、病院に行って検査・診断と、必要な治療(手術や薬の処方)をしていただくと同時に、十分な休養・栄養を取り、適切な運動などをすることが、回復のために必要です。せっかく病院で検査・診断・治療をしていただいたのに、暴飲・暴食をしたり、夜も寝ないで遊びほうけたり、大人であればアルコールやたばこをやめなかったりしたら、病気の回復は期待できません。

(2)これと同じで、教科の内容のみをいくら勉強しても、「読解力」を身に着けることを怠ると、教科書や教材、試験問題などを正確に最後まで読み解くことができないため、学校の授業を「理解」すること・定期テストや入試でよい点数を取ることはなかなか難しいといえます。

(3)新聞・辞書・読書で「読解力」を身に着けることは、病気のときの十分な睡眠・栄養・運動

などと全く同じで大切です。おわかりですか。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1)保護者の皆様にお願ひがあります。それは、昨日の新聞を、小学高学年生・中学生・高校生にプレゼントしてあげていただきたいということです。

(2)新聞を購読なさっていない場合は、可能であれば新聞を購読していただき、保護者の皆様が読み終えた昨日の新聞を、お子様にプレゼントしてあげていただきたいということです。

(3)学校の図書室や公共図書館で新聞を毎日読むことも、ご家庭でご指導ください。併せて、図書館で辞書や読書に親しむことも家庭教育の一環としてご指導ください。

どうかよろしくお願ひいたします。